



発行・障害者スポーツ振興会
京都障害者スポーツ振興会
題字 芝田 徳造

「京都の取り組み」

障害者スポーツのつどい

全国障害児体育研究連絡協議会春の学習会報告記

スポーツのつどい専門部長 辻井 武

去る3月23日(土)・24日(日)大阪府立箕面支援学校で全国障害児体育研究連絡協議会の春の学習会が開催されました。

東京・大阪・京都を中心として全国から50数名の学校の教員・施設職員・訓練施設指導員が集まりました。

「障害者スポーツの歩みから未来を創造する」今、求められる現場力を高めよう」をテーマに次の講演・報告・実技がありました。

講演：芝田徳造先生
「なぜ障害のある人にスポーツを保障しようと考えたか」

報告1：辻井 武(前述)

報告2：半田優子先生

東京都立光明特別支援学校教諭

「支援学校における体

の取り組みの紹介」
実技：「風船バレー」「ダンス」「身近なものを使った運動」等)

「つどい」のスタッフを代表して辻井は次のことを報告しました。

まず、つどいの意義と歴史・タイムテーブル・レイアウト・コーナー紹介(受付・オープン・卓球・トラポリン・軽スポーツ・バドミントン風船バレー・トレーナーズの各コーナー紹介)をしました。参加者は、身体・知的・精神・発達障害など幅広いです。スタッフも、幅広い年齢層・様々な職業・学生・退職後・主婦など幅広いです。次に、ビデオで次の3種類の紹介をしました。

車いすハンドボール：
「車いすバスケットボールも重くゴールも

高いためシュートが届かないけれど、走り回りシュートを奪い合う激しいスポーツがしたい。」という参加者の思いから「つどい」の中で生まれたスポーツです。参加者は「私もシュートができた。」仲間ができた。」と話してくれました。

卓球バレー：「近畿の支援学校のスポーツ大会から生まれ京都でルー化され、「つどい」の中でいろいろ障害の方々にも愛されるように育ってきて、今では全国大会へ飛躍しようとしています。足で打つ方・ラケットに持ち手をつけて打つ人もいます。」

風船バレー：「全国各地で行われていますが、九州でルー化されました。参加者全員が必ず風船に触ってから相手コートに返します。風船をつなぐ。心をつなぐ。声をかけ合う。見つめ合う。」

その次に、つどいで大切にしていること(3つの柱)の紹介をしました。

はじめの一步
参加者にとつて：障害を理解してくれる人がい

る。スポーツだけでなく、人とのふれあい、出会いがある。「私にもできることがある。」という発見の場。自由にできる。好きな種目を好きなだけできる。自分のペースでできる。安心して参加できる。(府立体育館という障害者に理解のある同じ場所・定期開催)

スタッフにとつて：参加者の笑顔に出会える。スタッフ同士仲間に会える。スポーツが苦手なスタッフでもいろいろな場で輝くことができる。スタッフの持ち味を生かすことができる。スタッフも参加者と一緒になつて楽しめる。

一緒にやろうよ！楽しもうよ！
・参加者も家族・友人もヘルパーさんもスタッフも体育館職員も一緒にスポーツを楽しもう。私教える人、私教えてもらう人という関係ではなく。共にスポーツを楽しむところがいいところである。新しいスタッフがあベテランの参加者に教えてもらうこともしばしばある。どのように工夫したら、一緒にもっと楽しめるのかを一緒に見つける場である。

(裏面へ続く)

行事予定	5月	19(日)	第47回スポーツレクリエーションフェスティバル	丹波自然運動公園	「つどい」 6 / 9
		26(日)	252回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
		26(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
	6月	2(日)	253回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/ (2013年3月24日に一部更新)					リニューアル オープン

(表面より)

もつと、輪を広げよう！
つどいをまだまだ知らない人がたくさんいる。もつと宣伝しよう。知っていても来にくい人に来やすい場にする工夫。振興会の他の専門部・他団体（指導者協議会）との連携を工夫する。

「つどい」と「他の場（大会・教室・サークルなど）」をつなぐ場である。

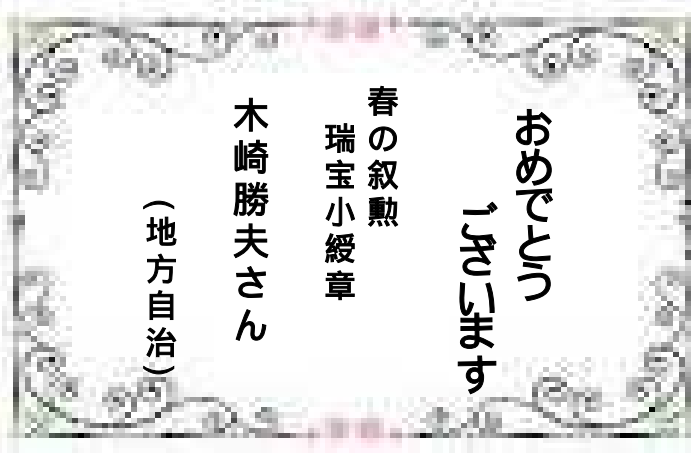
まとめとして、現場で主に学齢時の児童生徒を指導しておられる先生方に向をお伝えすれば良いか考えたときに次の事を考えました。

放課後・卒業後・病気や事故で障害を受けた後、その人の長い一生を考えた取り組みの重要性。

スポーツをその人に合わせていくのではなく、その人にあつたスポーツを創造していく事の重要性。障害のある人ない人が共に楽しめるスポーツを創造していく事の重要性。

つどい会場の府立体育館が、改修工事のため昨年10月から本年5月まで長期の休みとなりました。その間、「スタッフのつどい」を毎月開催しました。卓球バレー・シンクロ・城

陽のつどいスタッフ・フライングディスク・ボッチャ・水族館と食事会・シンクロスタッフ・見学など様々なスポーツの話聞き、実技を経験して、6月9日（日）午後再開に備えています。
シンクロのビデオ紹介をして、5月12日第2回シンクロフェスティバル開催・10月13日第13回全国障害者スポーツ大会東京大会オープン競技ソロ大会開催を伝えました。



日本の障害者スポーツ小史
全国障害児体育研究
連絡協議会春の学習会

芝田徳造顧問の講演要旨

「私たちがなぜ障害児者にスポーツ（身体運動）を保障しようと考えたか」から

戦前

視覚・聴覚障害者は大正12年に「盲学校及び聾学校令」で各道府県（戦前東京は東京府）に設置が義務づけられ、大正11年京阪聾唖庭球戦、大正14年関西盲学生体育大会、大正15年日本聾唖協会陸上競技大会、昭和初期には全国盲学生体育大会など開催された。しかし、昭和6年の満州事変から第二次世界大戦へと日本が戦争に駆り立てられる中、軍人になれない障害者にとってスポーツをする事はできなかった。知的・肢体障害は明治33年「義務教育就学猶予免除令」で学校教育を受ける機会はなく、当然スポーツを行う機会も奪われていた。

戦後

昭和21年には全国盲学生陸上競技大会が復活し42年まで開催されていた。

障害者体育施設67施設が開設されている。



第33回全京都障害者

スポーツ大会申込み締切

6月5日（水）迄
参加料 500円

申込み・詳細は振興会まで

「つどい」を探しています

つどいは2004年12月275号から振興会ホームページで掲載しています。

つどい173号

つどい1996年6月発行

つどい287号

つどい2005年12月発行

つどい289号

つどい2006年2月発行

つどい300号

つどい2006年3月発行

以下の「つどい」をお持ちの方は編集委員まで連絡して下さい。